

令和6年4月18日に6年生が実施した全国学力状況調査の分析結果について報告します。

「国語の調査結果にみられる特徴と現状分析」

昨年度、一昨年度に引き続き、全体の数値を見てみると全国平均を上回る結果となった。これまでの国語科の校内研究や日々の取組における成果が出ているのではないかと考えられる。

例年、思考力、判断力、表現力等のB 書くことにおいては、数値が低いこともあり、校内でも積極的に書く機会を設ける等、改善を図っていたが、今年度においては全国平均を大きく上回る数値であった。

一方で、思考力、判断力、表現力等のA 話すこと・聞くことに関しては、例年全国平均を上回っていたが、今年度は下回ることになった。B、C共に全国平均を上回っている現状から、自身で文章を読んだりそれを基に書いたりすることを得意とするが、自分の言葉で表現したり発信したりすること、また相手の発言を適切に理解することなどを苦手とする児童が多いことが考えられる。

「算数の調査結果にみられる特徴と現状分析」

各領域において、全国平均を上回る結果となった。

選択式の問題形式では、全国平均を8.5ポイント以上上回っており、児童が計算ミスをせず、かつ選択肢を誤らず回答できたことが分かる。

各領域において、年々ポイントが増加傾向にあるので、日々の算数科の指導に限らず、様々な教科において計算やデータの活用、測定などを活用しながら、教科横断的な指導を継続していく。

D データの活用に関しては、全国平均とほぼ変わらない現状がある。表から必要な数値を読み取ることを苦手としている児童が多いことが分かり、表などの読み取りを中心に指導を続けていく必要がある。

「児童質問紙回答結果にみられる特徴と現状分析」

例年の本校の実態と比較してみると、国語・算数への関心などが大きく上昇している。また、自己有用感も上昇傾向にあり、日々の授業と学級経営がよい関係で行われているといえる。

家庭での学習時間が少ない傾向にあり、「全くしない」や「1時間未満」が多く、学習塾等に通っている児童も多くない。本校の児童の実態として、特に放課後において学習に充てる時間が少ないことが分かる。